授業要項（令和６年度分）

３ 年 生

作 業 療 法 学 科

授業科目名	リハビリテーション医学		（フリガナ） 担当教官名	馬庭　壯吉・酒井　康生・蓼沼　　拓 高橋　幸男・山本　佳昭			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修･選択 の別	必修
科目概要	リハビリテーションが治療的手段として重要である運動疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方について学習する。						
到達目標	障害の評価及び治療方針を立案することができる。						

回数	授業内容	担当
1	脳卒中のリハビリテーション 　脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の治療および高次脳機能のリハビリテーション	山本佳昭
2-3	神経筋疾患のリハビリテーション 　パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症等の変性疾患とリハビリテーション 　内部疾患のリハビリテーション	酒井康生
4	整形外科疾患のリハビリテーション・関節リウマチのリハビリテーション	馬庭壯吉
5	脊髄損傷、切断のリハビリテーション	蓼沼　拓
6	小児のリハビリテーション	蓼沼　拓
7	精神疾患および認知症のリハビリテーション	高橋幸男
8	がんのリハビリテーション 　乳がん、大腸がん、胃がん、肺がんとリハビリテーション、がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア	蓼沼　拓

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験 90%、出席状況 10%
教科書	目でみるリハビリテーション医学（第 2 版）・上田　敏・東京大学出版会 リハビリテーション医学テキスト（改訂第 5 版）・三上真弘、出江紳一（編）　南江堂
参考書	標準整形外科学（第 14 版）　編集・井樋、吉川、津村、田中、高木 現代リハビリテーション医学（改訂第 4 版）・千野直一　　編集・金原出版
実務経験に関する記述	整形外科専門医およびリハビリテーション科専門医、老年精神科専門医、義肢装具適合判定医等の認定を持ち、大学病院等で臨床診療に携る医師が、日々の診療で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	チーム医療論演習		（フリガナ） 担当教官名	ヤマ モト マリコ 山 本 真理子			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	少子高齢化が進み、医療機能も地域全体で治し、支える「地域完結型」の体制構築への変化を迎えている中で、所属施設内外の専門職種と連携・協働する力は医療専門職として必須である。本科目ではこれまでの多職種連携科目での学びを復習すると共に、学外者との地域の課題分析、解決策を見つけるワークを通じて、他職種間でのコミュニケーション技能を養う。						
到達目標	・他職種間におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。 ・他職種の思いを引き出すことができる。 ・他職種に意思を伝え、課題を分析し、解決案作成することができる。						

回数	授業内容	担当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論、医療コミュニケーション演習での学びについて振り返り、チーム医療論演習の目的、概要について説明する	山本真理子
2	事前ワーク；SDGsとは何か調べ、テーマに合った取り組み例を挙げてみる	山本真理子
3	事前ワーク；奥出雲町の現状について調べてみる	山本真理子
4	事前ワーク；提示されたテーマについて、奥出雲町内での課題を考える	山本真理子
5	事前ワーク；考えた課題に対する改善策についてPT・OTの視点で考えてみる	山本真理子
6	各テーマについて、奥出雲町内での課題を考える	山本真理子
7	学外者とワーク・課題立案	山本真理子
8	学外者とワーク・課題立案	山本真理子
9	考えた課題に対する改善策についてPT・OTの視点で考えてみる	山本真理子
10	学外者とワーク・解決策立案	山本真理子
11	学外者とワーク・解決策立案	山本真理子
12	発表資料作成	山本真理子
13	発表資料作成	山本真理子
14	発表	山本真理子
15	まとめ：学外者との改題・解決案作成のワークを通し、他職種連携の視点で振り返り	山本真理子

アクティブラーニング	SDGsをテーマに地域について学生同士および学外者とグループワークを行い、問題点から、課題解決策を作成し、発表する。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介
実務経験に関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験を持つ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。

授業科目名	研究方法論Ⅲ		（フリガナ） 担当教官名	山本 真理子（ヤマモト マリコ） 他 作業療法学科教員			
開講学期	通年						
対象学科及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	臨床現場において作業療法の取り組みについて振り返ることや新たな知見を探究していくことは重要である。この授業では、論理的に物事を捉え、相手に伝わるプレゼンテーション能力を養うことを目的としている。また、研究方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ研究の基礎知識や方法に加え、執筆・発表規程や研究を行う際の説明と同意といった倫理に配慮しながら研究を進めていくことを学ぶ。						
到達目標	1. 研究方法論Ⅱで作成した研究計画書を元に研究論文を作成することができる。 2. 研究論文を他者に伝わりやすいように工夫し発表できる。						

回数	授業内容	担当
1	【オリエンテーション】授業の目的・到達目標・授業の概要・指導担当教員決め・学修の準備について担当教員が説明する。 スケジュールなど研究に関する総論を担当教員が説明する。	山本真理子
2	研究計画書をもとに、研究スケジュールを作成する。	全専任教員
3~30	指導教員の指導のもと、調査あるいは実験の実施ができる。 適切な統計手法を用いてデータを解析できる。 文献を用いて結果の解釈や考察ができる。 倫理的かつ科学的根拠に基づいた論文を執筆できる。 研究論文発表に向けた準備を行う。担当教員は研究論文発表に向け指導・助言を行う。	全専任教員

アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は研究スケジュールを立て、管理する。必要に応じて、グループ間で研究に関するディスカッションを行う。 ・担当教員はグループに対し、指導・助言を行う。
評価基準	研究に対する取り組み姿勢：20%、研究論文：40%、卒業論文発表：40%で判定する
教科書	適宜配布
参考書	鎌倉矩子他著：作業療法士のための研究法入門　三輪書店
実務経験に関する記述	学会発表を行っている教員、修士課程を修了している教員により指導を行いながら、実践的な教育を行う。

授業科目名	作業療法マネジメント論Ⅰ		(フリガナ) 担当教官名	クモダ コウジ・モリワキ シゲト 雲田耕治・森脇繁登 コバヤシ ヒサシ 小林　央			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修

科目概要	本講義では、より効率的な作業療法を提供するために必要な組織の管理や運営といったマネジメントについての知識を深める。
到達目標	・マネジメント、組織、リーダーについて説明できる。 ・部門を管理する意義・要因を説明できる。 ・身近な組織について、人・もの・時間の視点で課題を抽出し、課題解決に向けた取組を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	マネジメントの概要について	雲田耕治
2	組織論について	雲田耕治
3	組織論についての演習	雲田耕治
4	組織におけるリーダー（種類、役割）について	小林　央
5	リーダーについての演習	小林　央 雲田耕治
6	部門を管理する；人とモノを、資金と時間を管理することの意義について	雲田耕治
7	部門を管理する；目標立案と管理のポイントについて	森脇繁登
8	部門管理についての演習	森脇繁登

アクティブラーニング	組織、リーダー、部門管理についてグループワークを行い、その結果の発表を行う。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）及び課題から総合評価　100%
教科書	作業療法管理学入門　第2版　大庭潤平編著　医歯薬出版
参考書	リハビリテーション管理・運営　実践ガイドブック　メジカルビュー社 医療機関、介護施設のリハビリ部門管理者のための実践テキスト　ロギカ書房
実務経験に関する記述	20年以上の臨床経験と10年以上の管理業務を経験した教員と、現在臨床で管理業務を行っている作業療法士が担当する

授業科目名	作業療法マネジメント論Ⅱ		（フリガナ） 担当教官名	森脇繁登・小林央 篠崎亜由美・雲田耕治 小山雅之			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	本講義では、より効率的な作業療法を提供するために必要な組織の管理や運営といったマネジメントについて、各領域の実践例について学び、病院組織の仕組みとリーダーの役割を学ぶ。						
到達目標	・人を育てる必要性について説明できる。 ・作業療法士が活躍する各領域での組織運営について理解する。 ・理想とする組織像を提案し、自身が貢献できる取組を立案することができる。						

回数	授業内容	担当
1	人材育成について；マネージャーとリーダー	雲田
2	人材育成について；コーチング・ティーチング、メンタリング	雲田
3	急性期における組織運営	森脇
4	回復期における組織運営	小林
5	精神領域における組織運営	篠崎
6	就労支援における組織運営	小山
7	生活期における組織運営	原田
8	まとめ；組織運営についての演習	雲田

アクティブラーニング	組織運営についてグループワークを行い、その結果の発表を行う。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価　100%
教科書	作業療法管理学入門　第２版　大庭潤平編著　医歯薬出版
参考書	リハビリテーション管理・運営　実践ガイドブック　メジカルビュー社 医療機関、介護施設のリハビリ部門管理者のための実践テキスト　ロギカ書房
実務経験に関する記述	

授業科目名	臨床作業療法評価学（演習）		（フリガナ） 担当教官名	アオキ リュウタロウ ツダ コウタロウ 青木 竜太朗・津田 宏太郎			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	臨床実習に向けた客観的臨床能力評価（OSCE）を行う。学生が自己の臨床能力（精神・運動領域、認知領域、情意領域）の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床実習に必要な能力を向上することを目的とする。 臨床技能に関する講義・演習の後に模擬症例を用いてコミュニケーション、検査・測定技術、分析・解釈を評価者が試験にて評価する。試験後に学生は評価者からフィードバックを受ける。						
到達目標	・各評価項目における目的や意義を述べることができる。 ・各評価項目に求められる技術を模擬患者を対象に実施することができる。 ・一連のオリエンテーション、評価のプロセスで医療人として相応しい態度、関わりを示すことができる。 ・臨床実習までの自身の課題を明確にし、改善に向けて努力することができる。						

回数	授業内容	担当
1	OSCE オリエンテーション・スケジュール提示	青木・津田
2~7	【演習・講義】 身体障害（片麻痺）・高次脳障害（半側空間無視・注意障害）	青木・津田
8~11	【演習・講義】 精神障害（面接）	青木・津田
12~14	【演習・講義】 整形疾患（大腿骨頸部骨折）	青木・津田
15	【演習・講義】 各疾患に対する試験	青木・津田

アクティブラーニング	アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。
評価基準	実技試験 100%（身体障害者分野・精神障害者分野の2分野に分けて実施する。各分野に基準を設け基準をお超えた場合に合格とする。ただし、1分野でも基準未満があれば再試験とする。実技試験前にプレ試験を実施し、学生自身の到達度を明確にする。
教科書	特になし　　各演習にて適宜提示する
参考書	・才藤栄一監修「PT・OT のための臨床技能と OSCE ～コミュニケーションと介助～」金原出版　2015 年 ・才藤栄一監修「PT・OT のための臨床技能と OSCE ～機能障害・能力低下への介入～」金原出版　2015 年
実務経験に関する記述	身体障害領域・精神障害領域で8年～20年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、身体障害領域、精神障害領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。

授業科目名	作業療法治療学I−2(整形系)		(フリガナ) 担当教官名	佐藤千晃・吉田俊輔			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	整形外科疾患をもつクライエントに対する作業療法について、講義、演習およびグループワークを通して学習する。講義では、各疾患特有の病態について画像を用いながら理解を深める。演習では、病態を踏まえた上でクライエントの作業の可能化に必要な評価や介入について学習する。グループワークでは、演習でまとめた内容を基にグループ内で共有し、学びを深める。						
到達目標	・各種疾患の病態を説明できる ・各種疾患の病態におけるリスクと予後が説明できる ・症状により疾患特異性評価を列挙できる ・模擬事例の情報をICFの視点で説明できる ・疾患に応じたプログラムを立案できる ・各疾患と画像所見とを結びつけて理解できる						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション、整形外科疾患に対する作業療法の総論	吉田俊輔
2~7	脊髄損傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）	吉田俊輔
8~11	関節リウマチの病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）	吉田俊輔
12~17	骨折および関節疾患の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）	吉田俊輔
18~20	腱損傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について（講義、模擬事例を活用した演習、グループワーク）	吉田俊輔
21~24	末梢神経損傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について	佐藤千晃
25~26	熱傷の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について	佐藤千晃
27~30	切断の病態・合併症・リスク管理、評価、介入について	佐藤千晃

アクティブラーニング	各疾患の模擬症例を用いて、グループでディスカッションを実施する。
評価基準	期末試験60%、小テスト20%、レポート20%
教科書	・小林隆司（編）：PT・OTビジュアルテキスト　身体障害作業療法学1　骨関節・神経疾患編　第1版、羊土社
参考書	・井樋栄二（著）：『標準整形外科学 第14版』（医学書院）
実務経験に関する記述	身体障害領域で10年程度の臨床経験を有する教員が、具体的な事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学I−3(内科系)		（フリガナ） 担当教官名	錦織健次・佐藤千晃（ニシコオリ ケンジ サトウ チアキ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	作業療法における各種内部障害について、その障害を理解し対象者を作業的存在として捉えた援助方法を学ぶ。その際、評価、治療理論、リスク管理等について理解を深め、基礎的な作業療法を実施できることを目標とする。						
到達目標	・各種疾患の病態と症状を説明できる ・各種疾患の病態におけるリスクと予後が説明できる ・症状により疾患特異性評価を列挙できる ・PP の情報を ICF の視点で理解できる ・疾患に応じたプログラムを説明できる						

回数	授業内容	担当
1~2	心臓の解剖・生理	佐藤千晃
3~6	各心疾患の病態、合併症、リスク管理、心電図、評価、作業療法について	佐藤千晃
7	模擬症例を通じての ICF の実践：グループワーク	錦織健次
8	模擬症例を通しての目標立案・治療アプローチ：グループワーク	錦織健次
9~11	呼吸器の解剖・生理・運動	錦織健次
12~13	呼吸器疾患の病態、合併症、リスク管理、評価、作業療法について	錦織健次
14	嚥下障害の病態と作業療法	錦織健次
15	模擬症例を通じての ICF の実践：グループワーク	錦織健次
16	模擬症例を通しての目標立案・治療アプローチ：グループワーク	錦織健次
17~19	腎臓の解剖と生理、腎疾患の病態・合併症・リスク管理、評価、作業療法について	錦織健次
20	模擬症例を通じての ICF の実践：グループワーク	錦織健次
21	模擬症例を通しての目標立案・治療アプローチ：グループワーク	錦織健次
22	糖尿病の病態、合併症、リスク管理、糖尿病の評価と作業療法について	錦織健次
23	模擬症例を通じての ICF の実践：グループワーク	錦織健次
24	模擬症例に対しての目標設定・治療プログラム立案：グループワーク	錦織健次
25~27	がんリハビリテーション　概論・苦痛と対応、管理とリハビリテーションの実際、血液データの診方	佐藤千晃
28	模擬症例を通じての ICF の実践：グループワーク	錦織健次
29	模擬症例に対しての目標設定・治療プログラム立案：グループワーク	錦織健次
30	吸引について	佐藤千晃

アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。
評価基準	期末試験（60%）、グループワークの態度・発表（20%）、確認テスト（20%）
教科書	小林隆司（編）：身体障害作業療法学２　内部疾患編　第１版、羊土社
参考書	１．菅原洋子他編集；作業療法学全書４　身体障害　改訂第３版、協同医書 ２．斉藤佑樹著；作業で語る事例報告　作業療法レジメの書き方・考え方、医学書院 ３．柴喜崇（編）：ADL　第２版、羊土社
実務経験に関する記述	地域で約 10 年の臨床経験を有する教員が、内科系疾患を有する事例を提示し、実践的な教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学Ⅱ（精神）－2		（フリガナ） 担当教官名	津　田　宏太郎（ツダ コウタロウ）			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	作業療法における精神障害領域の各種疾患について、障害特性を理解し、疾患を持たれた対象者に対し適切な評価、治療計画を立てれるような講義を実施する。 また、国家試験や臨床実習を想定した学習も行う。						
到達目標	各種精神疾患に対して適切なアプローチを立案し、実施できるようになる。						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション	津田宏太郎
2	気分障害に対する作業療法	津田宏太郎
3	気分障害に対する作業療法	津田宏太郎
4	神経症に対する作業療法	津田宏太郎
5	神経症に対する作業療法	津田宏太郎
6	依存症候群に対する作業療法	津田宏太郎
7	依存症候群に対する作業療法	津田宏太郎
8	人格障害に対する作業療法	津田宏太郎
9	人格障害に対する作業療法	津田宏太郎
10	精神遅滞、てんかんに対する作業療法	津田宏太郎
11	認知症に対する作業療法	津田宏太郎
12	国家試験から見る各種精神疾患	津田宏太郎
13	国家試験から見る各種精神疾患	津田宏太郎
14	心理教育・SST について	津田宏太郎
15	各種治療プログラムについて	津田宏太郎

アクティブラーニング	心理教育や疾病管理などグループワークを通して体験し、学習する。
評価基準	期末試験 90% 出席日数・授業態度 10%
教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版　堀田英樹編集　中央法規出版
参考書	冨岡詔子、小林正義編：作業療法全書（改訂第3版）第5巻「作業治療学2　精神障害」、日本作業療法士会、協同医書出版
実務経験に関する記述	精神科病院において12年間従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における治療法を具体的な事例を提示し、教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学Ⅱ（精神）－3		（フリガナ） 担当教官名	津田宏太郎（ツダ コウタロウ）・青山宏（アオヤマ ヒロシ） 篠崎亜由美（シノザキ アユミ）・秋山健太（アキヤマ ケンタ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	作業療法の精神科領域における歴史や変遷を学び、作業療法士の役割を理解する。そして、対象者の疾患・障害特性や回復過程を踏まえ、実際の臨床場面での作業療法治療・援助内容を理解する。また、医療施設や医療施設以外の他領域の実践に触れ、対象者にとってのQOLの構築、地域生活支援の必要性について理解する。						
到達目標	・精神科領域における作業療法の歴史と変遷を踏まえ精神医療の現状を理解できる。 ・臨床場面の作業療法を理解できる。 ・回復過程に応じた治療プログラムを実践できる力を獲得する。						

回数	授業内容	担当
1	精神科作業療法の現在（歴史と変遷を踏まえ）	青山　宏
2	臨床において精神科作業療法が目指すもの（社会と生活の中で）	青山　宏
3	グループワーク	津田宏太郎
4	急性期作業療法の実際	篠崎亜由美
5	急性期作業療法（グループワーク）	津田宏太郎
6	回復期前期作業療法の実際	篠崎亜由美
7	回復期前期作業療法（グループワーク）	津田宏太郎
8	回復期後期作業療法の実際	篠崎亜由美
9	回復期後期作業療法（グループワーク）	津田宏太郎
10	維持期作業療法の実際	津田宏太郎
11	維持期作業療法（グループワーク）	津田宏太郎
12	精神科作業療法の評価	秋山　健太
13	地域生活支援	秋山　健太
14	地域生活支援	秋山　健太
15	地域生活支援（グループワーク）	津田宏太郎

アクティブラーニング	授業では模擬対象者に対するグループワークを実施する．学生は対象者に対する作業療法治療を立案し，治療の模擬的体験をする。
評価基準	授業態度・グループワークへの参加や積極性(発言回数)・課題レポート内容を40%，筆記試験40%，出席と課題提出20%
教科書	資料配布
参考書	冨岡詔子、小林正義編：作業療法全書（改訂第3班）第5巻「作業治療学2　精神障害」日本作業療法士協会、協同医書出版
実務経験に関する記述	精神科病院勤務約20年以上の臨床経験を持つ教員が，具体的な事例を提示し実践的な教育を行う．

授業科目名	作業療法治療学Ⅲ（発達）	（フリガナ） 担当教官名	錦織健次（ニシコオリ ケンジ）・三宅孝史（ミヤケ タカシ） 岩田淳也（イワタ ジュンヤ）・来間寿史（クルマ トシフミ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修・選択の別	必修

科目概要	発達時期に疾病または外傷による末梢神経系あるいは中枢神経系に障害を受けた児・者の作業療法についての講義。疾病の症状、合併症、禁忌事項を学ぶ。作業療法の治療理論。疾患は、脳性まひ・筋ジストロフィー・二分脊椎・知的障害（ダウン症）・重症児・自閉症・ADHD・LD・等。人間発達学・小児科学・運動学・作業療法概論・作業療法評価学等の知識を踏まえて講義し、具体的な見通しを持ち作業療法に取り組めることを目標にしている。
到達目標	1. 発達障害の特徴を踏まえて作業療法プログラムを立案・一部実施する。 2. 治療目的に沿った治療道具（玩具作り）ができる。

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション（作業療法の目的や流れ）	錦織健次
2	ポジショニングとシーティング（講義）	錦織健次
3	ポジショニングとシーティング（演習）	錦織健次
4	摂食機能と姿勢の関連（講義）	錦織健次
5	摂食機能と姿勢の関連（演習）	錦織健次
6	脳性麻痺（痙直型）の作業療法（新生児期～幼児期）	錦織健次
7	脳性麻痺（痙直型）の作業療法（学童期～青年期）	錦織健次
8	脳性麻痺（アテトーゼ型）の作業療法	錦織健次
9	筋ジストロフィー・二分脊椎の作業療法	錦織健次
10	自閉スペクトラム症の作業療法	錦織健次
11	注意欠如多動症（ADHD）の作業療法	錦織健次
12	学習障害（LD）の作業療法	錦織健次
13	知的障害・ダウン症の作業療法	錦織健次
14	保護者／関連機関との連携・介入	錦織健次
15	重症心身障がい児・者の作業療法	三宅孝史
16	重症心身障がい児・者の作業療法	三宅孝史
17	重症心身障がい児・者の作業療法	三宅孝史
18	重症心身障がい児・者の作業療法	三宅孝史
19	発達特性のある方（18歳まで）が利用できる福祉施設の概要と特性	岩田淳也
20	放課後等デイサービス事業について、評価及び作業療法介入（ADHD や SLD についてのビデオ観察、評価）	岩田淳也
21	感覚統合療法（講義・演習）	来間寿史
22	感覚統合療法（講義・演習）	来間寿史
23	感覚統合療法（講義・演習）	来間寿史
24	感覚統合療法（講義・演習）	来間寿史
25	ビデオ視聴による評価・プログラム作成の実践	錦織健次
26	ビデオ視聴による評価・プログラム作成の実践	錦織健次
27	事例を通して：ICF のまとめ	錦織健次
28	プログラムの立案、治療道具づくり	錦織健次
29	治療道具づくり、プログラム発表準備	錦織健次
30	プログラム発表	錦織健次

アクティブラーニング	演習を通し、治療の一部を体験する。動画視聴から作業療法評価、作業療法プログラム立案を体験し、治療道具作成を一部経験する。
評価基準	成績は定期試験（80%）、レポート（20%）等を総合して評価する
教科書	資料配布
参考書	・佐藤　剛：作業療法士協会監修．作業治療学３．発達障害．協同医書出版社 ・栗原まな：「小児のリハビリテーション」診断と治療社 ・土田玲子：感覚統合Ｑ＆Ａ　第２版　協同医書出版社
実務経験に関する記述	放課後等デイサービスや訪問リハビリテーションの臨床現場で発達障がい児・者の支援に関わる教員が理論と実践の両面から講義を展開する。

授業科目名	作業療法治療学Ⅳ（高次脳）	（フリガナ） 担当教官名	アオ キ リュウタロウ 青 木 竜太朗
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修

科目概要	高次脳機能障害の作業療法を理解し、その臨床思考過程について学ぶ。模擬事例を通し、各高次脳機能障害の症状に対する評価立案・ICF による分類・治療プログラムの立案までの一連の過程を経験する。
到達目標	・高次脳機能障害に対する作業療法の流れを理解し、説明できる。 ・模擬事例を通して、基本情報・脳画像より適切な評価を列挙できる。 ・模擬事例の評価情報を ICF でまとめ、問題点を整理することができる。 ・各症状に応じたプログラムを立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	高次脳機能障害の作業療法について、作業療法目的・流れを説明する。 加えて、本科目の目的、内容、到達目標をオリエンテーションする。	青木竜太朗
2	注意障害の模擬症例 (基本情報・脳画像) を用いて評価計画の立案をグループで協議し発表する。	青木竜太朗
3	注意障害の模擬症例を用いて評価情報を ICF でまとめ、グループにて利点・問題点を整理する。	青木竜太朗
4	注意障害の模擬症例について ICF を用いて利点・問題点を発表する。	青木竜太朗
5･6	遂行機能障害・記憶障害・半側空間無視障害の模擬症例を用いてグループ毎に評価計画の立案、ICF 整理、利点・問題点の抽出	青木竜太朗
7	遂行機能障害・記憶障害・半側空間無視障害の模擬症例についてグループ発表する。	青木竜太朗
8	注意障害・記憶障害の患者に対する治療戦略を提示する。	青木竜太朗
9	遂行機能障害・半側空間無視の患者に対する治療戦略を提示する。	青木竜太朗
10～12	注意障害・記憶障害・遂行機能障害・半側空間無視の模擬患者に対する治療の立案を各グループで検討する。	青木竜太朗
13･14	注意障害・記憶障害・遂行機能障害・半側空間無視の模擬患者に対する患者紹介及び、治療の提示をグループで発表する。	青木竜太朗
15	失認・失行・失語の概要と治療戦略を提示する。	青木竜太朗

アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。
評価基準	筆記試験 80%、グループ演習 20%
教科書	・鎌倉矩子・本多留美：高次脳機能障害の作業療法 第一版 三輪書店 ・高次脳機能障害マエストロシリーズ③ リハビリテーション評価 医歯薬出版
参考書	・渕雅子：作業療法全書 改訂第 3 版 第 8 巻 作業療法治療学 5 高次脳機能障害協同医書出版 ・高次脳機能障害マエストロシリーズ① 基礎知識のエッセンス 医歯薬出版 ・高次脳機能障害マエストロシリーズ② 画像の見かた・使い方 医歯薬出版
実務経験に関する記述	総合病院において、8年間専任作業療法士として従事し、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における高次脳機能障害の治療に関わった教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学Ⅴ（老年期）	（フリガナ） 担当教官名	クモ ダ コウ ジ 雲 田 耕 治
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修

科目概要	高齢期の身体的・精神的特徴を理解し、各種評価と作業療法治療を学修する。 高齢期を支える家族・地域・法制度の支点から支援を考える力を養う。
到達目標	1. 高齢期における身体的・精神的特徴を理解し、説明できるようになる。 2. 高齢期の評価、作業療法プログラムを立案できるようになる。

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション　本科目の位置づけと　日本の高齢化と社会動向の説明	雲田耕治
2	高齢期社会と高齢期の課題をディスカッションし、問題点を抽出する 抽出した課題を解決するにはどうすれば良いかをグループワークで検討する	雲田耕治
3～4	高齢者の生理的・身体的特徴のメカニズムについて 高齢者模擬体験：視野狭窄や白内障、円背について一部体験する ※長期臥床と廃用症候群について概念の違いを説明する	雲田耕治
5	高齢者の心理・精神的特徴のメカニズムについて 加齢に伴う生理的な認知機能の低下について	雲田耕治
6	高齢者における評価の模擬的実践 （障害高齢者の日常生活自立度判定基準、PGC モラールスケール、基本チェックリスト、老研式活動能力指標、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、HUI、CDR、パラチェック老人行動評定尺度、SF-36 など） 小テスト：高齢者の生理的・身体的・心理精神的特徴について	雲田耕治
7	認知症の病態、症状、類型について	雲田耕治
8	認知症における作業療法評価について（HDS-R、MMSE 他）	雲田耕治
9～10	老年期に特に注意すること（廃用症候群、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル、褥瘡） 小テスト：認知症のタイプ別特徴について	雲田耕治
11～12	虚弱高齢者のケーススタディ（模擬事例を基に ICF からの統合と解釈、プランニングをグループワークで実践する）	雲田耕治
13～14	認知症高齢者のケーススタディ（模擬事例を基に ICF からの統合と解釈、プランニングをグループワークで実践する）	雲田耕治
15	ケーススタディの発表	雲田耕治

アクティブラーニング	高齢期の身体・精神的特徴を一部体験する。 高齢期作業療法プログラムをグループディスカッションしながら立案し、発表をする。
評価基準	筆記試験　50%　小テスト　30% 授業態度（グループディスカッション対する取り組み姿勢など）20%
教科書	松房利憲他編：標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学　第3版　医学書院
参考書	・認知症をもつ人への作業療法アプローチ；支点プロセス・理論、メジカルビュー社 ・高齢期領域の作業療法；プログラム立案のポイント. 中央法規出版 ・村田和香編：作業療法学全書　改訂第3版　第7巻　作業療法学4　老年期
実務経験に関する記述	

授業科目名	装具学			（フリガナ） 担当教官名	石倉英樹（イシクラ ヒデキ）		
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	装具の種類と基本的機構について学習する。 各疾患の病態・障害に対する装具治療について学習する。						
到達目標	臨床で使用されている装具について理解する。 各疾患に対して適切な装具療法を検討することができるようになる。						

回数	授業内容	担当
1	装具学概論 ・装具の概要	石倉英樹
2	下肢の装具療法 ・下肢装具の部品とその機能	石倉英樹
3	下肢の装具療法 ・短下肢装具	石倉英樹
4	下肢の装具療法 ・長下肢装具、股装具、膝装具	石倉英樹
5	下肢の装具療法 ・靴型装具	石倉英樹
6	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト	石倉英樹
7	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト演習	石倉英樹
8	体幹の装具療法 ・体幹装具、側弯装具	石倉英樹
9	上肢の装具療法 ・上肢装具、自助具	石倉英樹
10	疾患に対する装具療法 ・脳卒中片麻痺	石倉英樹
11	疾患に対する装具療法 ・整形外科疾患	石倉英樹
12	疾患に対する装具療法 ・関節リウマチ	石倉英樹
13	疾患に対する装具療法 ・小児疾患	石倉英樹
14	疾患に対する装具療法 ・脊髄損傷	石倉英樹
15	疾患に対する装具療法、講義総括 ・装具療法臨床場面における実際	石倉英樹

アクティブラーニング	各疾患に装具療法に関する演習を行い、臨床場面に即した装具療法の実際について理解を深める。
評価基準	期末試験 100% *ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。
教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト　装具学　第2版　総編集　石川朗　中山書店 義肢装具のチェックポイント（第9版）医学書院
参考書	義肢・装具学（羊土社） リハビリテーション義肢装具学（メジカルビュー社）
実務経験に関する記述	病院や施設、支援学校での理学療法士としての臨床に従事した教員が、装具療法に関する経験をもとに講義を行う。

授業科目名	応用作業分析学		（フリガナ） 担当教官名	津田宏太郎（ツダ コウタロウ）・雲田耕治（クモダ コウジ）			
開講学期	通年						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 2	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	作業療法士がその専門性を発揮できる対象は疾病がある者・予測される者、また健康な者まで非常に幅広く、捉え方も様々である。本授業では幅広い対象者について時期別に作業療法に必要な思考プロセスを事例動画や臨床患者を通じて演習形式で学ぶ。尚、本科目では「PBL チュートリアル」を導入し、各グループごとにチューターが関わりながら課題に立脚した学生の能動的な学びを支援する。						
到達目標	・身体障害（急性期・回復期・生活期）・精神障害の各分野の作業療法の思考プロセスを理解する。 ・各段階で必要な評価や治療、マネジメントの方法などを列挙できる。 ・将来、医療チームの一員として、集団の中での協調性と積極性ならびに責任を発揮できる態度と技量を身につける。 ・自己ならびに他の学生、事例、チューターを適正に評価し、適切なフィードバックに基づいて改善したり資質向上を促す態度と技量を身につける。						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション（授業の概要説明・グループ設定）	津田・雲田
2~3	第一ユニット（事例検討）　身障障害（脳血管疾患）	津田・雲田
4	第一ユニット（総合討論）	津田・雲田
5~7	第二ユニット（事例検討）　精神障害（統合失調症）	津田・雲田
8	第二ユニット（総合討論）	津田・雲田
9~11	第三ユニット（事例検討）　急性期・回復期患者	津田・雲田
12	第三ユニット（総合討論）	津田・雲田
13~15	第四ユニット（事例検討）　生活期・精神分野患者	津田・雲田
16	第四ユニット（総合討論）	津田・雲田

アクティブラーニング	本科目では「PBL チュートリアル」の形態をとり、 1）学生主体の能動的自己学修 2）少人数によるグループダイナミックスを活用した学修形態により、 3）問題に準拠した学修、 4）統合的・学際的な学修を押し進める。
評価基準	総合討論における発表内容　50% 出席日数・グループ活動における態度・行動　50%
教科書	適宜提示する
参考書	授業の進行とともに適宜紹介する
実務経験に関する記述	身体障害領域・精神障害領域で8年～20年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、身体障害領域、精神障害領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。

授業科目名	職業関連活動		（フリガナ） 担当教官名	錦織健次・大谷将之（ニシコオリ ケンジ・オオタニ マサユキ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	1．心や体に障がいをもった方、生まれながらにして障がいをもつ方にとって、就労の意味と役割を考え、支援する力を養う。 2．作業療法の発祥に遡り、作業療法士として就労支援の意義を考え、臨床多分野でも就労支援ができる視点を養う。 3．就労支援における作業療法士の役割が多様化される時代のニーズに即した柔軟な考えができるよう視野を広げる。						
到達目標	1．何のために働くのか自分の考えを明確にすることができる。 2．他者の就労に対する価値観を共有することができる。 3．障害者総合支援法における福祉サービスの種類と作業療法士の役割を理解する。 4．「仕事」という作業の分析と就労支援に必要な作業療法評価に関する知識・支援技術を身に付ける。						

回数	授業内容	担当
1	職業関連活動の概説　オリエンテーション 【演習】働く目的と意味を考え求人票を外観する。 【講義】他の科目と職業関連活動科目の位置づけ、概要、目的を担当教員が講義をする。障害児・者の日本の歴史、世界の歴史、作業療法発祥と就労支援の歴史について講義をする。	錦織健次
2	職業関連活動の概念 【講義】人が働く意味について、ディスカッションを通して学生個々の考えを明確化し、クラス内で共有し、様々な価値観を共有する。	錦織健次
3	人の職業的発達、障がい者と職業 【講義】Ericsson の発達段階、Maslow の欲求階層に基づき、人の職業的発達を Super のキャリア発達の視点から人の職業的発達を講義する。障害者の就労の現状と課題を理解する。	錦織健次
4	職業関連活動に関する作業療法の実践	大谷将之
5	職業関連活動に関する作業療法の実践	大谷将之
6	仕事と作業分析①　【演習】	錦織健次
7	仕事と作業分析②　【演習】	錦織健次
8	発表	錦織健次
9	就労支援に関わる関連法規、就労支援における各種関連機関と関連職種 【講義】障害者自立支援法、障害者総合支援法、障害者雇用率制度、職業能力開発促進法、障害者総合支援法における福祉サービスの種類と特徴、世界の就労支援制度について講義をする。機関：ハローワーク、特別支援学校、地域障害者職業センター、障害者職業能力開発学校等 専門職：ジョブコーチ、社会福祉士、公認心理士等の役割について講義を受ける。	錦織健次
10~12	就労支援の実習 障害者就労支援の現場に赴き、見学／評価を行う。	錦織健次
13	実習のまとめ、振り返り	錦織健次
14	事業所の運営、地域の課題、産業の課題について講義。作業療法士の職域と役割についてディスカッションをす	錦織健次
15	発表（１３、１４を踏まえて）	錦織健次

アクティブラーニング	1．就労支援で実際に用いられる評価を体験し、自分の特性を見つめなおす機会がある。 2．仕事の特性を分析し、人にどのような能力が必要であるかを検討する 3．就労支援事業所に出かけ、観察評価、面接評価による作業療法評価を一部体験する。体験した内容に基づき、対象者にとって必要な就労支援の問題点抽出と作業療法計画の立案を一部体験する。
評価基準	筆記試験 80%、出席状況とレポート 20%
教科書	適宜資料配布
参考書	作業療法改訂第 6 版．上巻．H.Lhopkins,　H.D.Smith 編著．鎌倉矩子他訳 作業療法学全書改訂第三版．第 12 巻．職業関連活動．平賀昭信ら著．協同医書出版 作業療法マニュアル 58 高次脳機能障害のある人の生活・就労支援．日本作業療法士協会．2015
実務経験に関する記述	

授業科目名	地域インクルーシブ論		（フリガナ） 担当教官名	ヤマモト マリコ・オノ ヒロアキ 山本 真理子・尾野 寛明 ウチダ サキコ・シバ ユキコ 内田 咲子・芝 由紀子			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修
科目概要	・地域共生社会とは何かについて説明できる。 ・作業療法の専門性が高齢者・障害者・外国人等が安心して暮らせるためにどのように寄与できるのか考え、地域の課題発見・解決に向けた取組を立案することができる。						
到達目標	・地域包括ケアシステムについて説明できる。 ・作業療法の専門性が地域高齢者の健康増進に対してどのように寄与できるのか考え、地域の課題発見・解決に向けた取組を立案することができる。						

回数	授業内容	担当
1	地域共生社会の定義および概要について	山本・尾野
2	奥出雲町地域診断	山本・尾野・芝
3	奥出雲町課題ヒアリング	山本・尾野・内田
4	他地域との比較検討	山本・尾野
5	課題解決に向けた方略検討	山本・尾野・芝
6	課題解決に向けた方略検討	山本・尾野
7	発表、意見交換会	山本・尾野 内田・芝
8	発表、意見交換会	山本・尾野 内田・芝

アクティブラーニング	地域共生社会の概念を基に、奥出雲町の高齢者・障害者・外国人等が安心して暮らせるための取り組みについてグループワーク (PBL) を行い、その結果の発表を行う。
評価基準	プレゼンテーション 20%、出席日数・授業態度 80%
教科書	適宜プリント配布する。
参考書	適宜配布
実務経験に関する記述	

授業科目名	臨床実習Ⅱ		（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	135 3	授業形態	実習	必修・選択の別	必修
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅰに引き続き、作業療法士の業務について理解を深める。 臨床実習Ⅰの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な検査・測定方法を選択し正確に実施する能力、および検査・測定の結果を専門用語を用いて正確に記録する能力を育成することを目的とする。また、対象者とのラポールを築くため、目的に沿った医療面接の技術を育成する。						
到達目標	臨床実習Ⅰの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目を列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施できる。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者あるいは家族に対して検査・測定に関するオリエンテーションが適切に実施できる。 ・検査・測定結果を専門用語を用いて正確に記録することができる。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な医療面接が実施できる。						

授業内容	担当
臨床実習 時間：120時間（3週間：15日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目が列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施する。また、検査・測定等に関するオリエンテーションを実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間とし、家庭学習時間を含め45時間以内とする。	臨床実習指導者

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総合評価は学院教員にて実施する。 臨床実習態度30%、臨床実習後の提出課題内容30%　実習報告会の内容40%
教科書	島根リハビリテーション学院　作業療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	臨床実習Ⅲ		（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	180 4	授業形態	実習	必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅱに引き続き、作業療法士の業務について理解を深める。 臨床実習Ⅰ～Ⅱの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、得られた情報収集内容や検査・測定結果間の関連性を整理し統合・解釈し問題点を整理する能力を育成する。加えて、統合・解釈の思考過程を文章化する能力を育成することを目的とする。						
到達目標	臨床実習Ⅰ～Ⅱのの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を整理し統合・解釈できる。 ・ICIDH あるいは ICF にもとづき問題点を整理できる。 ・統合・解釈の思考課程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。						

授業内容	担当
臨床実習 時間：160 時間（4 週間：20 日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者の課題解決に向け、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を統合し解釈する。問題点を整理し、統合・解釈の思考課程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1 週間の施設実習時間は、40 時間（160 時間）とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内（180 時間）とする。	臨床実習指導者

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総合評価は学院教員にて実施する。 臨床実習態度 30%、臨床実習後の提出課題内容 30%　実習報告会の内容 40%
教科書	島根リハビリテーション学院　作業療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	総合演習Ⅲ		（フリガナ） 担当教官名	山本 真理子（ヤマモト マリコ） 他 作業療法学科教員			
開講学期	通年						
対象学科及び学年	作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	本科目は、国家試験にむけた学習を進める。 専門基礎分野を中心に復習と暗記、問題の読解と方略を学ぶことを目標とする。						
到達目標	各分野の到達度を把握し到達度範囲の全てを暗記することができる。また、まとめる、理解し説明できる、読解するといった学習方略を身に付けることができる。						

回数	授業内容	担当
1	解剖学（骨関節靭帯）	作業療法学科全教員
2	解剖学（筋起始・停止）	作業療法学科全教員
3	解剖学（脳解剖）、生理学	作業療法学科全教員
4	運動学	作業療法学科全教員
5	精神医学	作業療法学科全教員
6	臨床心理学	作業療法学科全教員
7~8	脳血管疾患	作業療法学科全教員
9~10	神経筋疾患	作業療法学科全教員
11~13	整形外科疾患	作業療法学科全教員
14~15	その他	作業療法学科全教員

アクティブラーニング	e-larning 学習と講義を用いて、理解と暗記を図る。 1. 科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2. 分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3. 最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。
評価基準	ペーパー試験 100% ※年間 7 回（日程については別途提示する）ある試験のうち 1 回以上、総得点の 4.5 割を超える回があること。
教科書	適時資料を配布
参考書	
実務経験に関する記述	

授業科目名	コミュニティ・ベースド・リハビリテーション（CBR）	（フリガナ） 担当教官名	オノ ヒロアキ・ウチダ サキコ 尾野寛明・内田咲子 シドヤスヨ・ヤマモト マリコ 宍戸容代・山本真理子
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	自由選択

科目概要	近年、人間の多様性の尊重等の強化がされる中、すべての虚弱な方々が自由なコミュニティや社会に効果的に参加することを可能とする目的で、リハビリテーションアプローチの一つであるCommunity-Based Rehabilitation：CBRが用いられている。本科目ではフィールドワークを通じて地域の課題を分析し、理学療法・作業療法の視点を加えた解決のための策を見つけ、地域住民に対してプレゼンテーションを行う。 ※本科目は、選択科目となっています。 ※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。
到達目標	・CBRの概念を理解する。 ・地域住民や他職種との協業の意義や必要性を知る。 ・地域のインフォーマルな集団において、問題発見・解決を行う。 ・プロジェクトマネジメントを学び、課題を期間内に遂行できる能力を身につける。

回数	授業内容	担当
1	CBRの概念について説明、実践例などを調べる	尾野・内田 宍戸・山本
2	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる	尾野・山本
3	地域を知る；三沢地区の立地、人口などを調べる	尾野・山本
4	地域を知る；地域の人に聞く	尾野・山本
5	現状調査；フィールドワーク	尾野・内田 宍戸・山本
6	現状調査；フィールドワーク	尾野・内田 宍戸・山本
7	現状調査；フィールドワーク	尾野・内田 山本
8	現状調査；フィールドワーク	尾野・内田 山本
9	PT・OT視点での改善点作成	尾野・山本
10	PT・OT視点での改善点作成	尾野・山本
11	発表資料準備	尾野・内田 山本
12	発表資料準備	尾野・内田 山本
13	発表資料準備	尾野・内田 山本
14	地域での発表、意見交換会	尾野・内田 宍戸・山本
15	地域での発表、意見交換会	尾野・内田 宍戸・山本

アクティブラーニング	地域についてフィールドワークで得た情報から導き出した問題点などから、グループワークを行い、課題解決策を作成し、発表する。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価　100%
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介
実務経験に関する記述	

授業科目名	医療関連ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス（演習）	（フリガナ）担当教官名	尾野（オノ） 寛明（ヒロアキ）・吉川（キッカワ） 英夫（ヒデオ）・石亀（イシガメ） 五郎（ゴロウ） 安田（ヤスダ） 彩夏（アヤカ）・糸賀（イトガ） 夏樹（ナツキ）・落合（オチアイ） 孝行（タカユキ） 山本真理子（ヤマモトマリコ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	自由選択

科目概要	ビジネスを通じて地域課題解決を図る動きとして「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス（SB・CB）」が注目を浴びている。集落の小さなビジネスが地域の健康づくりにつながることも多い。 本科目では、奥出雲町で実際にSB・CBを手掛ける、若手関係者と対話を重ねるプログラムを実施する。彼らに密着する中で、自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える。 大多数の学生は、まずは専門職として医療機関や支援機関で働くことになる。一方で将来的に、地域の困りごとを解決しながら人々の健康づくりにつなげていく「コーディネーター」のような働き方や、地域で独立・起業するような働き方を思い描いている学生も増えている。そのためにも、専門職の技術と地域課題を掛け合わせる感性を持ち合わせてほしいと願っている。本プログラムを通じて、新たな領域を開拓する意識の養成を目指す。 ※本科目は、選択科目となっています。 ※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。
到達目標	・SB、CBの基本的概念を理解し、ビジネスを通じて地域課題解決に取り組む意義を理解する ・複雑かつ多岐にわたる地域課題を俯瞰して今取り組むべき課題を抽出できる「課題設定能力」を身につける ・地域まるごとリハビリテーションを追及するために、地域の様々な関係者と連携できる「対話力」「点と線をつなぐ力」を身につける ・無理に企画を作るのではなく、地域の実践者たちの取り組みに専門技術を掛け合わせて試行錯誤できる感性を身につける

回数	授業内容	担当
1	医療・福祉職がなぜ、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを学ぶのか。	尾野・吉川・石亀・安田・糸賀・落合・山本
2	SB、CBの基本的概念：普通のビジネスと何が違うのかを理解する。	尾野・安田・山本
3	SB、CBが生み出すもの：生きがい創出、健康増進など、ビジネスを通じた課題解決の可能性を学ぶ。	尾野・石亀・山本
4	「小さな拠点」づくりとコミュニティビジネス：中山間地域の生活機能維持に向けたCBの役割を理解する。	尾野・安田 落合・山本
5	医療福祉とSB·CB：地域医療・地域福祉領域の課題とSB·CBの最先端の事例を学ぶ。	尾野・石亀 糸賀・山本
6～8	現地訪問（1）：町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする	尾野・吉川・石亀 安田・糸賀・落合 山本
9～11	現地訪問（2）：地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える	尾野・糸賀・落合 山本
12～13	現地訪問（3）：地区の若手たちと協力して小さな企画を実施してみる	尾野・石亀・安田 落合・山本
14～15	地域の関係者向けの報告会	尾野・吉川・石亀 安田・落合・山本

アクティブラーニング	地域のフィールドワークや実践者たちとの対話から自分なりの視点で課題を見つけ出し、自分たちができそうな小さな企画を考えて発表する。
評価基準	地域の関係者向けの報告会プレゼンで評価
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	・尾野寛明・中村香菜子・大美光代『わたしをつくるまちづくり～地域をマジメに遊ぶ実践者たち』（コールサック社、2021年） ・竹端寛・尾野寛明（編著）『無理しない地域づくりの学校　私からはじまるコミュニティワーク』（ミネルヴァ書房、2017年）
実務経験に関する記述	